



第422号 平成25年9月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 奥村正治

第27回京都市小学生水泳記録会

会長 奥村正治

小学校の夏休みに入って約1週間たった7月の最終日31日に西京極 京都アクアリーナで開かれました。

午前8時40分より練習水泳が開始され、エントリー人数から男子958名 女子521名 計1479名の入水である。ここアクアリーナは、50m 9 コースのプールであり、普通の学校では味わえない感触があるだろうと思いますが、練習時間は30分以上かかり、50分ほどの練習となりました。

今年は、ちょうど昨年この大会の日に小学校でいたましい事故が重なり、この大会にもその影響が出ている様に思いました。一番変わった点は、スタートに飛び込みスタイルがなくなった事です。入水後、壁面に手をそえてスタートするというスタイルに変わりました。見学の方から云いますとスタートがばらばらでなく、見た目にはきれいなスタートでした。

今回、例年と比較すると、きちっと50mは泳げる人が参加資格有り、と厳格に一線を引かれた様です。毎年「50mは泳げる人が」はうたい文句としては出ていた様ですが、この点も昨年の事故をきっかけに厳格になされた様です。その結果、毎年50mが泳ぎきれないで途中で沈没する児童の数はけっこう多い様に（10～20ケースくらい？）思いましたが、今年は私の知るのところでは2ケースと非常に少なかったです。

実際の医務記録からは、練習時に左第4趾の切傷1ケースと、今までにないプールの水を飲んだという2ケースが、医務室に来ました。例年ですと水を

飲んだケースはないとすれば、来室者1名と云う事になります。この様な大会もめずらしいと思います。これも、50mはきちっと泳げる人の参加という点を徹底された結果で、平穩無事の大会でした。

レースは男女別に50mクロールと平泳ぎ、200mクロールリレー、200m混合（ク・平・平・ク）リレーである。今回は、すべてが飛び込み禁止のスタートですので、すべての記録が今回新記録とされました。

一位のみ記録します。

女子 50mクロール 30秒3 辻 薫乃さん

女子 50m平泳ぎ 41秒9 藤田 優さん

男子 50mクロール 30秒1 古橋 龍祐君

男子 50m平泳ぎ 38秒1 中野 雄太君

女子 200mクロールリレー

2分30秒3 附属桃山小学校

女子 200m混合リレー

2分58秒5 御所南小学校

男子 200mクロールリレー

2分31秒3 上賀茂小学校A

男子 200m混合リレー

2分52秒8 乾隆小学校A

閉会式は、午後4時20分に終了して、大会を閉じました。

参加した医師のひとりごと。休日の大会にならないものでしょうか？休診にしての参加になります。学校は夏休みですけど・・・。プールの民間委託になると、収入が優先する様です。

京都市学校医会 左京支部会

左京支部長 東 道 伸二郎

例年は10～11月の日曜日に開かれる支部会が35℃を超える猛暑の7月7日に京都ホテルで行われました。

昨年は左京区で夏休みの始まった初日に、学校でのプール教室中に事故があり、これを受けて今年の支部会は夏休み前に行い、プール事故の経過と現在検討されている学校のプール授業、プール教室のあり方等を中心に支部会を開催しました。

最初に、奥村正治京都市学校医会会長から、事故当日の、水泳前の健康チェック等から始まる経過を時系列でお知らせいただきました。当日のプールでの水位が通常より高かったこと、例年のように大型のビート板も使われていたこと、数十人が入るプールでの監視体制について等いくつかの課題が明らかになってきているが、事故を引き起こした直接の原因の究明には至っていないこと、事故の原因のさらなる究明と再発防止の徹底を目的に京都市教育委員会に第三者委員会が設けられ引き続き検討されることをご報告くださいました。教育委員会は、この事故をきっかけに、新しくプール授業の手引書を作り、プールの水位は一番背の低い児童の胸の線に合わせ

授業すること等を盛り込んだ指針を作成され学校に徹底するよう指示されたことも説明されました。

当日プールに居合わせた子供の事故後のケアを含め、事故後の学校医の役割、担当校医に対する学校医会からの応援の必要性等、様々な問題が話し合われました。

次に、本年4月に定期接種となり、最近積極的干渉を一時中止された子宮頸がんワクチンについて論議がありました。国の判断を停止し、子供と親と医師に丸投げされたワクチン接種の適応については、産婦人科医会がん対策委員会が6月に出された(www.jaog.or.jp/news/img/cancer_20130624)の中の「被接種へのアドバイス～どうしようかと悩まれている方へ」が実際には一番説明しやすいという意見がありました。明快に説明できることではないので始めから保健センターに相談するよう指導されている先生もおられました。また風疹の流行とワクチン不足についても活発な討議がありました。

11時半に開始して、意見交換会を兼ねた懇親会が終わったのは午後3時過ぎで、ほとんどの先生が真夏日を避けてタクシーで帰宅されました。

京都市立養徳小学校プール事故第三者調査委員会報告 1.

今熊野小学校 長 村 吉 朗

昨年7月30日(月)西京極のアクアリーナにおいて小学生水泳記録会が行われている日の昼間、左京区の養徳小学校において1年生(当時)の浅田羽菜(あさだはな)ちゃんが、夏休み期間中のプール学習の際に溺れ、翌日になり死亡するという京都市で初めてのプールでの死亡事故が発生しました。

その後警察等による事情聴取などを経て、現在の時点では刑事事件とはなっていませんが、ご両親から京都市及び京都府を相手取る民事訴訟が開始して

おります。

しかしこれと平行する形で京都市及び京都市教育委員会と羽菜ちゃんのご両親との話し合いを経て、一周忌の直前の7月27日(土)に京都市立養徳小学校プール事故第三者調査委員会が立ち上がることとなりました。私はその委員の一人に選ばれましたので守秘義務に引っかからない範囲での、委員会における協議経過を報告したいと考えております。

委員の構成は、安保千秋 委員長(京都市、弁護

士)、石田達也 副委員長(大津市、弁護士)、内田良 委員(名古屋市、名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授)、北條龍治 委員(横浜市、NPO法人日本プール安全管理振興協会理事長)、松井敦典 委員(鳴門市、鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授)、山中龍宏 委員(横浜市、緑園こどもクリニック院長)と私の7名です。会議初日を前に委員のことを調べて考えたのは、地元京都市からの委員が2名しかいないことと、年齢からすると山中委員が最年長でその次が私という順番になっていることから、このままでは委員長になってしまうかもしれないということでした。大津のいじめ事件以降耳にすることが多くなった第三者委員会ですが、報告書が電話帳ぐらいの厚さがあり、シャドーライターはいないとも聞き絶体嫌だと考えました。そこで当日の委員長、副委員長を決める際には全く発言をせず、嵐が過ぎ去るのを首を縮めてやり過ごしました。その結果、弁護士2人に委員長・副委員長が決定されました。

当初新聞報道ではこの事故の原因として、当日のプールの水位がその前の高学年用のレベルのままであり、比較的身長が低かった羽菜ちゃんにとっては約20cm水位が高かったこと、また69名の参加者に対し3名の教師という監視体制の不備との見方でした。

ただその後の学校医会に対する教育委員会からの説明や、養徳小学校の学校医である有井先生の話などから今ひとつ納得できないものを感じていたことも事実です。ご両親も同様の疑問を感じていたと思われる、今回の原因究明と再発予防対策を目的とした第三者委員会の発足となったと思われます。

今回私が委員となったことで、守秘義務の縛りはあるものの、可能な限りの情報と委員の豊富な知識と経験に接することで、今後学校医としていかに行動していくべきなのかを含め発信が出来るものと考えております。

まずはじめに述べておかなければならないことは、この委員会がこれまでの他の第三者委員会とは異なり対立の構図を引きずったあげくのものではなく、

ご両親、教育委員会が等しく責任追及の目的ではなく、事故の原因究明と再発予防を目的とすることで、同じ側に立った上での委員会の設置であることです。そのため今後報告することとなりますが、8月19日(月)に実施されましたボランティアの子ども達の協力を得たプールでの再現検討等も可能となりました。これは本当に画期的なことで、多くの委員の方々が口々に「何故京都ではこのようなことが可能なんだ?」と発言されていることに現れていると感じています。

次に、委員の構成につき述べます。安保委員長は委員の中で唯一の女性で、京都市で女性と子どもの権利の擁護に長らく取り組んでこられた方です。石田副委員長は大津市で第三者委員会ブーム(そのように発言するとおしかりを受けるかもしれませんが…)の先駆けとなったいじめ事件に係わっている方です。内田委員は学校での事故に関して研究をしてられる若手の方です。北條委員はライフセーバーの活動の傍ら、プール事故が無くならず同様の事故が再発することに我慢できず、自らNPO法人を設立し全国に発信してられる熱血漢です。松井委員は教員養成の中で学生時代から係わってきた水泳に意欲を燃やし、自らプールに飛び込んでいく行動派の方です。山中委員は小児科医として日常診療に従事する傍ら、悲惨な子どもの水難事故をなくすよう発信を続けてられる方です。これらの方々に比べると私などは何の実績も無い存在ですが、スムーズな委員会運営が可能なように学校医としての経験を生かした発言をしています。

第三者委員会とはいえ、当事者双方が委員候補者を指名する形ではそれぞれの側よりとの誤解を受けてはいけませんので、今回私は学校医会の前会長の肩書きではなく京都府医師会学校保健委員会委員長の肩書きでの参加となっています。もっとも私個人は教育委員会に与するものではなく、中立と考えてはおります。(続く)

第4回 常任理事会

平成25年9月7日

於 事務局

出席者 奥村会長，林・竹内副会長，大久保・杉本・
山内各常任理事，佐野眼科学校医会副会長，
鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 第53回 近畿学校保健主事研究協議会 京都大会
8/5 会長出席
2. 第28回 京都市小学校「大文字駅伝」大会
第1回実行委員会 8/6 H26. 2. 9 (日)
3. 色覚相談 8/20, 8/27 各2名, 9/3 1名
4. 酒井晃先生瑞宝双光章受章祝賀会事前打ち合わせ
9/1 80名前後の出席予定
PM4:00 受付, PM5:00 開宴
5. 腎臓相談 9/3 2名 中学生
6. 第24回 子どもの心と身体懇話会 10/5
7. その他

<協議事項>

1. 京都市の学校産業医方向性について
健康管理医の仕事を今後精査する必要あり
次回理事会で結論
2. 養護教育研究会との懇談会について
9/28 (土) PM5:00~
3. 第28回 京都市小学校「大文字駅伝」大会支部
予選の出務医について
4. 平成25年度 ご勇退について
5. 新年会日程について H26. 1. 11 (土)

6. 第13回 京都「こどもの心とからだ」教育講演
会について 11/9
全国学校保健・学校医大会と同日
7. 第62回 近畿医師会連合学校医研究協議会につ
いて H26. 2. 9 大文字駅伝と同日
8. 第63回 全国学校保健研究大会について
11/7, 11/8 奥村出席
9. 第44回 全国学校保健・学校医大会について
11/9 奥村, 長村, 鈴木, 柏井, 林:出席
10. 京都市学校保健会健康教育シンポジウム
シンポジストについて 杉本
11. その他

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 9/10, 9/17
2. 精神衛生研究会 9/12
3. 腎臓相談 9/17
4. 平成25年度 京都府予防接種研修会 9/19 (木)
PM2:30 (府医)
5. 酒井晃先生瑞宝双光章受章祝賀会 9/23
京都ブライトンホテル PM4:00
6. 京都市学校保健会 第2回常務委員会
9/24 (火)
7. 京都市学校保健会 健康教育シンポジウム
事前打ち合わせ 9/24
8. 養護教育研究会との懇談会
9/28 (土) PM5:00
9. 第24回 子どものこころと身体懇話会
10/5 (土) PM3:00~ (第二日赤)
10. 第5回 常任理事会 10/5 PM1:30~